



地下鉄銀座駅
C2出口より徒歩2分
JR有楽町駅
中央出口より徒歩7分

ライカギャラリー東京 | Leica Gallery Tokyo

ライカ銀座店 2F | 東京都中央区銀座6-4-1 | Tel. 03-6215-7070

Leica Store Ginza 2F | 6-4-1 Ginza, Chuo-ku, Tokyo | Tel. +81 (0) 3 6215 7070 | www.leica-camera.co.jp



Lanesville, 1958 © Saul Leiter Foundation



GALLERY

Tokyo

Saul Leiter – Lanesville, 1958

2019.12.6 (Fri.) – 2020.3.1 (Sun.) 11:00 – 19:00

ライカギャラリー東京 Leica Gallery Tokyo

月曜日定休 Closed on Mondays

入場無料 Admission free

プロフィール

Saul Leiter (ソール・ライター、1923–2013)

1923年、ペンシルバニア州ピッツバーグに生まれる。父親はユダヤ教の聖職者ラビ。1946年、画家を志し、神学校を中退してニューヨークへ移住。1958年、ヘンリー・ウルフがアートディレクターに就任した『Harper's BAZAAR』誌でカメラマンとして仕事を始める。その後、80年代にかけて『Harper's BAZAAR』をはじめ多くの雑誌でファッション写真を撮影。1981年、ニューヨーク5番街にあった商業写真用の自分のスタジオを閉鎖。1993年、カラー写真制作のためイェール大学から資金提供を受ける。2006年、ドイツの出版社シュタイデルが初の写真集『Early Color』出版。2008年、パリのアンリ・カルティエ＝ブレッソン財団でヨーロッパ初の大規模回顧展開催。2012年、トーマス・リーチ監督によるドキュメンタリー映画「写真家ソール・ライター 急がない人生で見つけた13のこと (原題: In No Great Hurry: 13 Lessons in Life with Saul Leiter)」製作。2013年11月26日、ニューヨークにて死去。享年89歳。2015年、ソール・ライターの作品を管理する目的でソール・ライター財団創設。

※ライカギャラリー京都 (2019.12.7–2020.3.5) にて異なる作品で同時開催

2006年、ドイツの出版社シュタイデルから出版された『Early Color』により、「カラー写真のパイオニア」として、一躍世界の注目を浴びることになったソール・ライター。1950年代からファッション写真の第一線で活躍しながら、1980年代に商業写真から一切手を引き、忘却の彼方へと消え去ったソール・ライターに再び脚光が当たった時、彼はすでに80歳を過ぎていました。

画家を志してニューヨークへやってきたライターでしたが、新しい表現としてはじめて写真が生活の糧となることを知り、初めてファッション誌『Harper's BAZAAR』に起用されたのが1958年のことでした。この年、夏を過ごしたボストン近郊のレインズビルのコテージで撮影された一連のヌード写真は、畑違いであったファッション写真を習得しようという意図も垣間見える興味深い作品群です。生前、数多くのヌード作品を残したソール・ライターですが、カラーで撮影されたヌードは、この「Lanesville」シリーズが唯一となります。本展では、「Lanesville」を中心に同時期に撮影されたファッション・テストの作品を展示いたします。いずれも、日本初公開となります。